

第14回

日・韓・中ジュニア交流競技会



平成18年8月23日(水)～29日(火)

韓国 大邱広域市 ユニバシアードテニスコート

第14回日・韓・中ジュニア交流競技会参加メンバー

団 長	大森 徹
男子監督	本田健児
女子監督	迫田義次
男子選手	片山 翔（柳川） 富崎優也（龍谷） 金城 光（沖縄尚学） 中山賢太（山梨学院大附）
女子選手	田中優季（椋山女子学院） 内藤陽子（堀越） 末次真由子（柳川） 松重貴子（秀明英光）



第 14 回日・韓・中ジュニア交流競技会結果

男 子

日本 2 - 3 韓国

	S1	片山 翔	6 - 2 , 6 - 2	KIM Dae - Young
	S2	富崎 優也	7 - 6 , 3 - 6 , 6 - 2	OH Sang - Oh
	S3	金城 光	1 - 6 , 4 - 6	CHOI Jae - Won
	S4	中山 賢太	0 - 6 , 1 - 6	YOON Yo - Sub
	D	片山 翔 金城 光	4 - 6 , 7 - 6 , 3 - 6	KIM Dae - Young OH Sang - Oh

日本 2 - 3 大邱

	S1	片山 翔	6 - 3 , 6 - 4	LEE Jae - Yun
	S2	富崎 優也	4 - 6 , 6 - 2 , 1 - 6	KIM Min - Woo
	S3	金城 光	2 - 6 , 2 - 3 ret	KWAK Jae - Jun
	S4	中山 賢太	6 - 3 , 6 - 0	SUNG Min - Sub
	D	片山 翔 中山 賢太	5 - 7 , 6 - 4 , 4 - 6	LEE Jae - Yun KIM Min - Woo

日本 0 - 5 中国

	S1	片山 翔	2 - 6 , 2 - 6	Yin Xiao long
	S2	富崎 優也	3 - 6 , 5 - 7	Du Ye
	S3	金城 光	4 - 6 , 4 - 6	Gao Lei
	S4	中山 賢太	6 - 7 , 4 - 6	Deng Hong bo
	D	片山 翔 富崎 優也	6 - 3 , 2 - 6 , 0 - 1	Du Ye Yin Xiao long

女子

日本 2 - 3 韓国

	S1	田中 優季	2 - 6 , 4 - 6	SHIN Jung - Yoon
	S2	内藤 陽子	3 - 6 , 3 - 6	KIM Joo - Hyoung
	S3	末次真由子	6 - 2 , 5 - 7 , 6 - 3	LEE Kyung - Hwa
	S4	松重 貴子	3 - 6 , 3 - 6	HAN Sung - Hee
	D	田中 優季 末次真由子	3 - 6 , 7 - 5 , 1 - 0	SHIN Jung - Yoon KIM Joo - Hyoung

日本 5 - 0 大邱

	S1	田中 優季	6 - 1 , 6 - 4	KWAK Bo - Ra
	S2	内藤 陽子	6 - 4 , 7 - 5	JUNG Hye - Jin
	S3	末次真由子	6 - 2 , 6 - 2	JUNG Da - Hye
	S4	松重 貴子	2 - 6 , 6 - 4 , 7 - 6	AN So - Hyun
	D	田中 優季 内藤 陽子	6 - 0 , 6 - 4	KWAK Bo - Ra JUNG Da - Hye

日本 1 - 4 中国

	S1	田中 優季	6 - 0 , 6 - 0	Zhou Ni
	S2	内藤 陽子	0 - 6 , 2 - 6	Xu Yipan
	S3	末次真由子	2 - 6 , 3 - 6	Qiu Sisi
	S4	松重 貴子	1 - 6 , 2 - 6	Lu Ting ting
	D	田中 優季 末次真由子	1 - 6 , 1 - 6	Xu Yipan Lu Ting ting



韓国代表チームと

第14回日・韓・中ジュニア交流競技会を終えて

女子監督 迫田義次

第14回日・韓・中ジュニア交流競技会が、8月23日から29日の日程で韓国の大邱において開催され、大森団長以下男女各4名の選手団で参加しました。

今回初めての試みとして、8月21日・22日に夙川高校にて事前合宿を実施しました。これは、全国各地から選抜された選手に、日本代表としての自覚と連帯感を根付かせることが大きな目的でした。ただ参加するだけの意識ではなく、戦闘モード全開で対戦するという意識は、これから日本を背負って立つかもしれない選手たちにとっては、どうしても必要な要素だと思います。実施してみて思うことは、「やっぱり大正解」でした。合宿初日は、どことなくお互いにぎこちなかった会話や行動も次第に咬み合っていました。また、練習やミーティングをとおして、代表選手としての自覚と全員の団結心が定着したと思います。合宿日程としては、選手の疲れや練習の集中力を考慮すると、今回実施した出発前々日の午後と出発前日の午前中という日程が良いのではないかと思います。私自身が第12回大会に参加して、中国・韓国の実力は充分イメージできていたので、合宿効果をどう発揮できるのかがとても楽しみでした。

競技会は、日本・韓国・中国・開催地大邱の4チームによる、シングルス4試合・ダブルス1試合の計5試合対抗戦方式で実施されました。

8月25日(金)は韓国チームと対戦し、2勝3敗で惜敗。しかし、各試合とも大接戦で見所の多い試合でした。特に、各選手が真剣な表情で、ポイントを取る毎に声を出してプレーしている姿には、今回の競技会参加の目的意識がはっきり感じられました。「合宿効果」である。それにしても、韓国の選手達の試合に対する集中力と勝ちにこだわる執念は相変わらずである。試合の競った場面では、テニスのスタイルとか、フォームとか、戦術とか、体力とかということではなく、「ポイントをもぎ取る」といった表現がマッチするように思える。

8月26日(土)地元の大邱チームと対戦し、5戦全勝。韓国第3の町だけあって、大邱の代表チームといってもレベルの高い選手が多かった。日本チームは前日韓国に敗れたという雪辱心や会場・コートへの順応も手伝っての勝利ではなかったかと思えます。

8月27日(日)は中国チームと対戦し、1勝4敗で完敗。中国チームはオーダーを変更し、日本チーム1シングルス田中選手に4の選手を起用してきた。結果、田中選手は6-0,6-0で短時間圧勝しましたが、他の選手は大健闘したものの今一歩及びませんでした。中国チームは、オリンピックを控えていることもあり急速に選手強化が進んでいます。選手がでかい、テニスのスケールが大きい、組織的である等、オリンピック効果が確実に現れています。

最後に、このような日・韓・中ジュニア交流競技会に女子監督として参加する機会を得て、多くの経験をさせて頂きましたことに深く感謝し、今後のテニス競技発展に尽力できれば幸いですとっております。ありがとうございました。

男子監督 本田健児

今遠征を終えて思うことの一つは、やはり悔しさが残ります。善戦はするものの、最後のダブルス勝負でやられるという形が続き、なんとも悔しい限りでした。

敗因は多々ありますが、なかでも勝負どころのポイント取得率が低かった。またその場面での強い意志（ここをとる）が薄い、弱いことが気になります。このことは、国内選手の多くに共通しており、今回の遠征で日本人の世界へ向けての挑戦は、強い意志におけるレベルの差に注目し、そこのレベルアップに対しての日ごろの努力がいかにあるべきかを明確にすべきであると強く感じられました。

私自身久しぶりの海外遠征でもう一つ気づかされたことは、やはり国を代表して他国を訪れ試合をするということは、国内戦とはまた違う独特の試合感覚や意味があることだと思いました。このことは高校生にとっては人間的にも選手としても貴重な体験となることは間違いありません。これからも是非今大会が持続して開催されますことを願います。また高体連主催の海外遠征が他にも計画されれば、選手・監督の育成の場につながることにとなり励みにもなるのではと思った次第です。

最後になりますが、今大会参加にあたりご尽力いただきました、日本体育協会・高体連テニス部そして直前の合宿をお世話いただきました夙川学院高校の皆様には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



片山 翔

今年の日・韓・中は、韓国で行なわれました。僕は初めて韓国へ行って思ったのは、街が古い感じがしました。韓国の街は、人も多いし車も多くて日本とあまり変わらないと思いました。でも日本と少し違うのは、道端で店を出して物を売っている人たちがかなり目立っていました。その人達は、おじいちゃんやおばあちゃん達ばかりで、いろんなものを売っているかと思えば帽子だけだったり、バッグだけだったり一つの商品売っている店がほとんどでした。韓国の人達は、明るくて優しかったです。それと韓国は、食べ物が最高においしかったです。僕が一番気に入った韓国料理はプルコギです。プルコギとは、肉や野菜などを一緒に炒めてあるものです。このプルコギをキムチと一緒にレタスに巻いて食べるとやみつきになりました。この味を一生忘れることはありません。それと焼肉もおいしかったです。日本の焼肉と違って脂身が少なく食べやすかったです。

試合の方は、韓国にも中国にも負けてしまいました。試合の内容は、韓国戦のときは自分なりの戦略で試合をする事ができました。中国戦のときは序盤は相手と互角に試合をする事ができたのですが、途中から自分のペースが崩れて、相手にのまれてしまってそのままペースが戻らず負けてしまいました。今回は、試合をするだけでなく対戦した相手や相手チームの人達と友達になれて、とてもいい思い出になりました。そして、この日・韓・中交流試合を通じて、僕のこれからの人生にとってとても貴重な体験だったと思います。

今回は、日・韓・中交流試合に選んでいただき、また高体連の多くの方々にお世話していただきありがとうございました。次回もこのような機会があったら、よろしく願います。

富崎優也

昨年の北海道大会に続き、二度目のチャンスをいただき、今年は韓国での交流競技会に参加させていただきました。二度目の出場ではありましたが、やはり日本代表として恥ずかしくない試合をしなければという責任の重さは、今年の方が強かったように思います。それに、高校最後の日本代表戦を悔いの残らないものにもすることも強く思っていました。

一日目は韓国代表戦。ファイナルセットで相手の痙攣による途中棄権。勝ったものの納得のいく試合ではありませんでした。

二日目、韓国の地元チーム大邱戦。僕の相手はサーブアンドボレーが上手く、積極的に攻めてきました。“このポイント”がとれずファイナル負けでした。

三日目、中国戦。強いチームとは思っていましたが、日本は一勝もできずに負けてしまいました。

試合の全体的な反省として、疲労蓄積であったことでした。監督や他のメンバーに迷惑をかけてしまい、申し訳なかったです。昨年の大会にも出場していた選手が、何人が残っ

ていましたが、確実に上手くなっていたと思います。

今年は九州から3名の選手が選ばれ、一緒に参加しました。ジュニアの頃からよく戦ってきた選手たちでしたが、このような遠征は初めてでしたので、高校最後にたくさんの思いで話しができ、とてもよかったと思います。

しかし、中国や韓国の選手たちとは、語学力不足のため、なかなかコミュニケーションをとることができなかったことが残念でした。(昨年も同じ反省をしたのですが)これからは、語学の勉強も必要であると痛感しました。

最後になりましたが、この交流競技会は日本チームとして悔いの残る結果となり、申し訳なく思っています。大会レフェリーの方々や審判の方々、大会関係者の皆様、それに日本代表チームの皆さん、本当にありがとうございました。これからこの貴重な経験を無駄にすることのないように、高い目標に向かって毎日の練習に励み、頑張りたいと思います。

金城 光

今年3月にあった全国選抜高校テニス大会の個人戦で、僕はベスト6に入り、日・韓・中交流試合の日本代表選手に選ばれました。僕はこれまで日本代表の選手になったことがなかったので、日本代表選手になったという知らせを聞いたときとてもうれしかったです。

日・韓・中交流試合で韓国に行く前に、兵庫の夙川学院高校のテニスコートを借りて二日間合宿をしました。この合宿では、自分よりも強い選手と練習や試合ができたので、とても充実していました。本田監督はとてもいいアドバイスをしてくれたので、アドバイスされたことを忘れずにこれからは活かしていきたいです。二日間の合宿でいろいろなことを学び、やっぱり自分は「まだまだだ」と思いました。

二日間の合宿も終わり、いよいよ韓国に行く日になりました。空港ではいろんな競技の選手がいました。日本代表選手はどの選手も体がガッチリしていました。韓国に着いて通訳の人と出会いました。通訳の人はとても楽しく面白い人で、みんなすぐに友達になりました。通訳の人は僕たちに「ヨンミヌナって呼んで」って言われました。ヨンミは名前で、ヌナはお姉さんっていう意味だそうです。緊張感漂うなかで、場の空気を和ませたのが通訳のヨンミヌナでした。

いよいよ韓国戦の日になり、僕はシングルス3で出ることになりました。結局は1 - 6 , 4 - 6で負けてしまいましたが、2セット目はとても競って絶対ファイナルセットに持ち込むという気持ちでした。しかし大事なポイントで自分からミスを連発してしまいました。他の試合は片山君と富崎君が取って、中山君が落としました。団体戦なので2対2になりダブルスにかかりました。僕はダブルスに片山君と組んで出ることができました。このダブルスは絶対にとりたい試合でした。第1セット目は3 - 1とリードしたのですが、結局

取られてしまいました。第2セットはタイブレークで逆転して取りました。このままの流れで第3セット目も取れると思ったのですが、相手が気合を入れ直してきて競りました。でも僕は流れはこっちにあるから絶対勝てると思いましたが、審判の大事なところでのミスジャッジが連発し、それで僕と片山君は乱れてきて結局負けてしまいました。この韓国戦で、どんなことがあっても集中を切らさずに試合をすることの大事さを学びました。次は地元チーム戦でした。その日もシングルス3で出たのですが、僕は腰が急にものすごく痛くなり、棄権負けしました。その時僕は大事な試合で腰を痛めたことがとっても悔しかった。シングルスは2 - 2になり、この日もダブルスにかかりました。本当は僕がダブルスに出る予定でしたが、代わりに中山君が出ました。この日もダブルスがかなり競ったのですが、ファイナルで負けてしまいました。その時僕はダブルスに出たかったという気持ちでいっぱいでした。この地元チーム戦で学んだことは、自分の体のケアの仕方の知識、体力の足りなさを実感しました。最後は中国戦でした。僕は前の日に腰を痛めましたが、何とかシングルスは出ることができました。前の日よりは痛みがなく動くことはできましたが、サーブとバックが打てませんでした。相手は僕の打てないバックばかりを攻めてきました。僕は打てないかわりに考えながら試合をしていました。しかし4 - 6 , 4 - 6 で負けてしまいました。チームもシングルスで一つも取れませんでした。ダブルスは片山君と富崎君で組んで出ましたが、この日も惜しくもファイナルで負けてしまいました。中国戦で学んだことは、テクニックの足りなさでした。僕は今までワンパターンでポイントを取っていたので、もっとポイントを取るパターンを増やしていけたら、もっと通用すると思いました。3日間の試合を通じて僕は学ぶことがいっぱいありました。これからの練習では韓国で学んだことを活かしていきたいと思いました。この悔しさをバネにもっともっと強くなりたいと思います。帰る前日は観光をしました。その日は試合の時の悔しさを忘れて楽しめました。本当に韓国はいいところでした。韓国の人たちは温かくて、食事もとてもおいしかったです。僕は日・韓・中交流試合を終えて、本当に日本代表で韓国にいけてよかったです。日本とは違うテニスのプレースタイルや食事、環境を知ることができました。本当に勉強になりました。

最後に、引率して下さった大森先生、本田先生、迫田先生、合宿のときお世話になった夙川学院の皆さん、そして応援して下さった皆さん、ありがとうございました。本当に感謝しています。僕は一人でテニスをしているのではなく、いろいろな人の支えでテニスをさせてもらっていることがわかりました。その人達の為にも、これからもテニスを続けて生きますので応援よろしくをお願いします。

中山賢太

韓国出発前の神戸の夙川学院での練習は、自分が日ごろしている練習よりもはるかにレベルが高く、厳しい内容でしたので、「これを毎日続ければ強くなれるだろうな。」と思うと楽しくなり、どんな遠征になるかが楽しみでした。

韓国では四人がひとつになり、息も合い、テニスだけでなく打ち解けることができたのでとてもよかったと思います。

神戸の集合から始まり、日を追うごとに自分の気持ちも、プレーの調子も上がっていき、自分なりのベストパフォーマンスをすることが出来ました。

また、テニスを通じて韓国や中国の選手と言葉は通じなくても、交流を深めることが出来たことは、今後の自分のテニスだけではなく、いろいろな意味ですごく成長させてもらうことが出来ました。

この遠征を通して、テニスは個人プレーですが、いろいろな方々の協力があってこそ自分がコートに立てるのだと、改めて実感すると共に、より一層感謝の気持ちを忘れずに、プレーヤーとしても人間としても、精進しなくてはならないと思いました。

今回僕に、このような機会を与えてくださりありがとうございました。

田中優季

日韓中ジュニア交流競技会で、たくさんの事が経験できました。私は、自分になくて外国人に持っているもの、逆に自分に持っていて外国人にないものの差を試合を通して見つけたいと思っていました。他にも、日本人と外国人のゲームメイクの仕方も違うと分かっていたので、その中での勝ち方を見つけ、一つでも多く勝ちたいと思っていました。

初日は韓国戦で、ストレートで負けてしまいました。敗因は、ポイントのかけひきが上手くできないところにありました。40-15の時のプレーと40-30の時のプレーを逆にしないといけなかったと思います。そして、次の日からの試合では、リードした時のプレーの仕方を意識しました。40-15ではアグレッシブなプレーを、40-30になったら外国人がポイントがほしいときによく行う8割の力でコースを打ち分けていくプレーをやってみました。すると、心にもテニスにも余裕が出来て、常に自分のペースで試合が運べられるようになり、勝利へつなげられました。また、試合中や試合後の監督のアドバイスや他の選手のプレーを見て、自分のプレースタイルがはっきりとし、これからの自分の課題もはっきりとしました。

この交流会では、他の国の選手ともコミュニケーションがよくとれて、試合会場へ行くことが毎日とても楽しみになっていました。友達も多くなり、いろいろな人が応援してくれました。試合後もお互いの力を認め合って、少し前まで敵だった相手が仲間として私に話しかけてきてくれてとても嬉しかったです。言葉や文化は違うのにスポーツを通してこ

んなにも世界が広がることに、スポーツの力を改めて感じました。この大会を通して学んだことを生かして、世界に通用する選手になりたいです。この大会を支えてくださったたくさんの方々、毎日ご指導してくださった先生方、本当にありがとうございました。

内藤陽子

生まれて初めて日本代表選手として日・韓・中ジュニア交流競技会に参加させて頂きました。自分の実力がどれだけ海外で通用するか不安と楽しみな気持ちでいっぱいでした。

8月21日・22日はメンバー全員と監督の先生方と試合に向けて夙川高校のコートで強化練習をしました。サーブ、レシーブやフットワークやダブルスなど……。たくさんアドバイスを頂いて意識がさらに高まっていくのを感じました。夙川高校の方々も手伝って下さいました。ありがとうございました。

8月23日、いろいろな競技の日本選手達と韓国へ出発しました。みんな背が高くで強そうで、やはり日本のトップ選手は違うなと思いました。周りを見て自分ももっと力強い体にならなきゃいけないと思いました。韓国に着くと“みっちゃん”(あだ名)という方が通訳をして下さいました。韓国の人だけど日本語がとても上手でSMAPが大好きだそうです。

8月24日。試合会場で練習しました。日本より湿気がすごくて、暑くて大変でしたが、監督の迫田先生にサーブはもっと自分の背を利用して高い打点で打つようにとアドバイスをしていただき、力強いサーブが打てるようになりました。大変嬉しかったです。

8月25日。いよいよ試合の日です。相手は韓国。以前見たことある人達でした。私は2番手で出ましたが、3 - 6 , 3 - 6 で負けてしまいました。韓国の選手はパワーが凄く、おされる場面がたくさんありました。

8月26日。地元の大邱の選手達でした。やはりこの人達も力強く、でもミスが早い気もしました。私は6 - 4 , 7 - 5 で勝ちました。ずっと迫田先生にベンチに入っていてとても助かりました。そしてダブルスも出ました。田中優季ちゃんと組んで6 - 0 , 6 - 4。チームでは5 - 0で勝利。みんなで力をあわせて勝てた事は何倍もうれしかったです。

8月27日。雨が降っていましたが、午後から中国とやりました。中国の人はミスが全くななく決め切らないとポイントが取れませんでした。私は0 - 6 , 2 - 6。3日間の試合をしてたくさんことを学び、たくさん課題を見つける事が出来ました。滅多にないこの経験を大切に、生かして日本でもっともっと練習して強くなりたい!と思いました。

8月28日は日本選手団全員で観光。歩くのに疲れてしまったけどいろいろなものを観れました。お土産もたくさん買いました

8月29日。お別れの日が来てしまいました。メンバーの人と先生方とみっちゃんと別れるのはとても悲しかったです。でも試合で見つけた課題を早くマスターしたいという気

持ちもありました。もっと上手くなってまたみんなと会いたいです。先生方、1週間ありがとうございました。また全国で会えるのを楽しみにしています。帰国して今まで以上に練習に取り組んでいます。これからも頑張ります。

末次真由子

初日は韓国と試合をしました。私はシングルス3とダブルスに出ました。私の相手はすごく背の高い選手でした。どんな相手かもわからないし、最初は緊張してガチガチになってしまいました。でも、試合に入る直前に迫田先生に「末次のいつも通りの試合をすれば大丈夫」と声をかけてもらったので緊張が少しとれて試合ができました。相手の選手は背が高いので高い打点から角度のある早いサーブに最初苦戦してしまいました。でもサーブに慣れてきていつも通りの試合ができました。結果はストレートで勝ててとてもうれしかったです。ダブルスは田中優季ちゃんと組みなした。ダブルスが入る時点では1 - 3とチームの負けが決まっていたのであまりプレッシャーのない中で思い切って試合をすることができました。結果はファイナルスーパータイブレークの11-9で勝ちました。スーパータイブレークは初めての経験でした。

2日目は地元のテグと試合をしました。シングルス3にでました。テグ戦も勝つことができました。相手の選手はとてもしつこい粘りのある相手でした。少しやりにくかったんですけど、最後まで集中して試合をすることができてとてもよかったです。チームも5 - 0で勝つことができたのでとてもよかったです。

3日目は中国と試合をしました。シングルス3と田中優季ちゃんと組んでダブルスにでました。中国の選手は上にも横にも大きくて、迫力のある選手でした。全体的には長尾谷の雰囲気と似ていました。試合をしてみると、プレースタイルも長尾谷と似ていました。私の相手はすごいスピンのかかったボールを打つ選手でボールもとても重かったです。自分のテニスが全然通用していない気がしてとても悔しかったです。結果はストレートで負けてしまいました。ダブルスもラリーは負けていなかったと思うんですけど、ここぞという時に相手のボールの配給の仕方が上手くて、私たちもミスが増えてきてしまって、ストレートで負けてしまいました。あと、中国の選手はとても冷静で同じミスを何回もしない選手でした。

韓国と日本の違い。感じたところ。

韓国に来て感じたことは、特になくて、たくさん国があるなかで韓国は日本に近い国だと感じました。もちろん言葉は違って、日本語とほとんど変わらない言葉もたくさんあってとても身近に感じれてうれしかったです。たとえば、日本語で「約束」を、韓国語では「ヤクソ」と言ったり、日本語で「文化」を韓国語では「ムンハ」と言ったり、日本語で「注目」を「チュモク」と言ったりします。他にも日本語に似た韓国語はたくさんありました。食べ物も全体的に辛いものが多かったんですけど、焼肉だったりラーメンだった

り日本人の口に合うものがたくさんありました。買い物をしていても物価がとても安く、韓国は日本の10分の1で値段もわかりやすく、お金の使い方もすぐに覚えることができました。

今回の日・韓・中交流試合は、日頃敵同士で試合をしている人たちと仲間になって一緒に団体戦ができて一つになれたことが貴重な体験だったと思いました。これからもこの貴重な体験を生かして自分のテニスにプラスしていきたいとおもいます。

最後に、自分を日・韓・中交流試合に選んでくださった高体連の皆さん、韓国でお世話になった大森団長、通訳のヨンミーさん、女子監督の迫田先生、男子監督の本田先生、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

松重貴子

思い起こせば、3月の第28回全国選抜高校テニス大会においてプレーできたことが今でも信じられず、ましてや個人戦も勝ち上がり日・韓・中の代表に選ばれるなど、夢のまた夢の出来事でした。今の自分の力では国内でも海外でも通用するかどうかが不安な状態でしたが、このチャンスを少しでもこれからのテニス人生に生かせればと思い競技させていただきました。

初日の韓国戦では緊張のあまり、立ち上がりから凡ミスを重ねファーストセットは思い通りのプレーが出来なかったと反省しています。セカンドセットからは落ち着いてきて、自分なりに納得のいくプレーが出来たとは思いますが、これからはもっと勝利にこだわって結果につなげられるような選手になりたいと感じました。

2日目の試合は開催都市の選抜選手との対戦で予想以上に苦戦してしまいました。ファーストセットの出来は思わしくなく、相手のショットも強力で落としてしまいましたが、徐々に調子が上がり何とか勝つことが出来ました。海外の選手が立ち上がりから思い切りのいいプレーをすることは是非私も見習いたいと思いました。

3日目の中国の選手はとてもクレバーなプレーヤーで私のリズムを崩そうと多彩なショットにより私の持ち前の強打を完全に封じ込められた気がします。今思えば、もう少し冷静に打球に対応して、自分のチャンスを作れるようにすればよかったと後悔しています。

私は今まで試合の中で、本当は普通の調子でテニスの内容も悪くないのに、自分を疑って不安な状態でプレーを続けていたように思います。今回の中国や韓国の選手は常に堂々としており、自分の力を信じきってプレーしているように感じました。私のこれからのテニスに大いに活かして、必ずや世界に羽ばたきたいと思います。



大邱チームの女子と和やかに



中国代表チームと